前回の議論の整理

資料4

前回の議題

ライフステージ別の交通安全教育の目標

主な意見（要約）

- 自転車に乗っている以上、自身が加害者になり得ることは全年齢層に共通することであるため、**全ての年齢層で自転車が加害者になり得ることを理解させることが重要**ではないか。
- **他の交通主体に対する配慮の必要性については、未就学児の段階から反復・継続して教育を行うことが重要**ではないか。
- 自分の身の安全だけでなく、**他者への配慮の重要性なども関連付けて考えることができる**よう、「自転車に安全に乗る」ことだけではなく、「安全・**安心**に自転車を利用する」ことを目標として掲げてはどうか。
- 特に中学生・高校生は、**自分たちが将来の安全な交通社会を作り、それを支えていくという役割・ミッション・使命を担っており、こうした使命を全うするために、今交通ルール等を学んでいるのだということを意識させる必要があり**、こうした使命感を定着させることも交通安全教育の一つの目標なのではないか。
- **高校生は、自動車の運転免許取得を控えているという観点から、危険予測能力と危険回避能力を向上させる教育は必要不可欠**と考える。
- ライフステージ全体を通じた目標について、習得すべき態度は、「交通ルールを遵守し、**交通社会の一員としての自覚した態度**」としてはどうか。

今回は、前回議論したライフステージ別の目標に沿って、**ライフステージ別の教育内容、教育方法について検討を行う。**